

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：キャリアセンター	担当部局：キャリアセンター
大項目	8 学生支援 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	8.0.4 学生の進路支援は適切に行われているか。	
要素	進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施	
	キャリア支援に関する組織体制の整備	
	キャリア教育の適切性	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

//

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 就職率(現在の就職・進路決定率)は景気動向に関わらず85%以上とする	→就職率・・・分母は「就職希望者」ではなく、「卒業者」である。具体的には(就職決定者+自営)÷(卒業者-進学決定者)	B	B	B	A	A
2. 1～2年生向け体験型実習プログラムの参加者数を年間400名以上とする	→体験型実習プログラム・・・2008、2009年度の例で示すと、「マスメディアで働く」「ネクストリーダーズ・プロジェクト」「ウィメンズ・エグゼクティブ・リーダー養成塾」「KGワークラボ」「ベンチャー・インターンシップ」「市長インターンシップ」「グローバルリーダー・インターンシップ」「ワンディ・インターンシップ」	B	B	B	B	B
3. 年間の企業訪問数を延べ500社以上とする	→年間の企業・団体訪問件数(延べ数)・・・キャリアセンター職員による訪問	B	B	B	B	A
3-2. 大学として把握可能なインターンシップ派遣学生数を年間延べ300名以上とする		B	B	B	B	B
4. 学生が常駐する4キャンパスにおけるキャリア支援サービスの均質化を図る	→各キャンパスへの課長または主任の配置・・・指示命令系統の一本化によるサービス水準の均質化	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか</p> <p>【どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか】</p> <p><input type="checkbox"/>4年生およびM2年生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談(カウンセラー数を増やし面談件数をあげてきた<2009年度5,560件→2013年度14,954件>)。 ・システム開発の中で「面談予約システム」を開発し24時間どこからでも予約可能としたことで飛躍的に利便性が向上され面談件数の利用増にもつながった。 ・状況に応じたフォローアップセミナー、企業説明会の開催、未決定者への手紙郵送 ・進路調査(電話調査)による早期からの未決定者の把握と支援(求人票案内) <p><input type="checkbox"/>3年生およびM1年生支援を中心としたキャリアデザインサポートプログラム</p> <p>①進路選択に関わるガイダンス</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 学部3年生および大学院前期課程1年生対象のキャリアガイダンス(年5回) b. 外国人留学生対象キャリアガイダンス等 <p>②各種就職サポートセミナー</p> <ol style="list-style-type: none"> a. Trial SPI2模擬試験+ミニセミナー b. SPIフォローアップセミナー c. 良い企業の見極め方セミナー d. 模擬面談体験セミナー e. 筆記試験傾向と対策セミナー f. 障がいのある学生の就職を考えるセミナー等 <p><input type="checkbox"/>低学年次生対象キャリアサポートプログラム</p> <p>①新入生キャリアガイダンス</p> <p>②新2年生ガイダンス</p> <p><input type="checkbox"/>関西学院大学のキャリア支援は、就職活動を始める以前に「人生観、職業観をもち、自分の人生における働く意味を明確にした上で」、「長所(短所)を知り、強みを活かす」ことを大学生の間に行えるよう、「ライフデザインプログラム」として、入学時より正課と正課外の連動による全学的な取り組みを行っている。これにより自分の生き方や職業に対する考え方を長期的視点で捉える考え方を身につけさせ、自分自身の強みを認識させている。就職活動はこの過程の一つにあり、その中で、業界・業種選択や企業選択を行うという考え方をしっかりと根付かせるため、正課プログラム、インターンシップ、キャリアデザインサポートプログラム、エクステンションプログラムの連動によるライフデザイン・プログラムを提供している。</p> <p>これらプログラムを通じて重視していることは、以下の3点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の体験談を通して「生き方・仕事」を考える。 ・実社会の関わりの中で「働く」ことを考える。 ・様々な人との交流により「人間としての幅」を広げる。 <p>ライフデザイン・プログラムの全体像として、「授業で自分の将来について考える」ために「正課教育」としてのライフデザイン科目群があり、課外活動やボランティア等社会活動を通じて人間力を磨くという正課・正課外両輪による人間成長を導くものである。この中で、関西学院大学では「社会で求められる力」を低学年次から学べる多彩なプログラムを提供している。その中でもキャリアゼミは社会の最前線で活躍している人気講師や関西学院大学出身の社会人、日本経済をリードしている大企業の経営者など多彩な人材を講師として招き、グループワークを通して社会人基礎力を鍛えている。また、1年次から参加できる成長企業インターンシップは毎年10社程度の協力の下、開催している。インターンシップでは就業体験をすることにより「働くこと」の意味を考える貴重な機会となっている。更にキャリアデザインサポートプログラムにより、ワンランク上の力を身につけるためのキャリア支援プログラムや就職支援等充実している。加えて、資格取得でキャリアアップを図りたいと考える学生に対してはエクステンションプログラムを提供している。</p> <p><正課プログラム、インターンシップ></p> <p>○インターンシップ関連科目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ講義(社会の中での自分):2年生 2. インターンシップ演習(ソーシャルスキルとチームワーク):2年生 3. インターンシップ実習:3年生 4. 認定インターンシップA, B:3年生 <p>○キャリアゼミ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアゼミA:2年生 2. キャリアゼミB:2年生 3. キャリアゼミC:2年生 4. キャリアゼミアドバンスト:3年生 <p>○霞が関セミナー:1年生</p> <p><正課外インターンシップ></p> <p>○インターンシップ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. KG枠インターンシップ 2. 成長企業インターンシップ 3. 公募型インターンシップA, B <p><キャリア支援プログラム></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. KGワークラボ(企業会計編) 2. 一日企業体験 <p>⑥保証人対象プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> a. わが子のキャンパスライフを考えるセミナー(新入生保証人) b. わが子の就職を考えるセミナー(3年次生保証人) <p>【誰が(実施主体)】</p> <p><input type="checkbox"/>備考、参照。</p>
-----	--

☆

Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か

【結果】

- 目標の就職・進路決定率の結果は、下表「評価指標データ 2」のとおりである。目標の最終年度である2013年度の就職率(就職決定率)は87.6%となり、目標は達成した。評価はAである。
- 目標設定時の就職率が82.8%であったことから、4年目で数値を達成したことになる。しかしながら、「景気動向に関わらず」としていることから、毎年目標値85.0%をクリアするという目標でもある。この点では、5年間の内3年間は目標値を下回っている。
- なお、2011年度は東日本大震災の発生が選考活動開始直前のことであったため、まともに影響を受けるとともに、その後も世界的な通貨危機や超円高、タイの大洪水等により企業の採用意欲を急速に冷え込ませることとなった。内定状況も年度当初の5月は前年度の6割程度だったが、カウンセラーの増員による相談体制の強化や学内企業説明会の誘致等積極的に施策を実施した。結果、2011年度も最終的には前年度並みの就職率を維持することができた。

【良かった点、効果が上がった点】

- 目標を達成したことにより、「関西学院大学は就職に強い」という強みを継続することができた。これにより、本学に対する社会的な評価と保証人の安心感と信頼感、学生の安心感と就職意欲を高められた。

【課題・改善点】

- 各種プログラムの検証。
例えば、「模擬面接体験セミナー」の強化、適性試験対策、外国人留学生、個人面談(進路選択に関わる指導、組織体制の整備)の充実、など
- 複数キャンパスにおけるサービスレベルの均質化(組織体制の整備)

Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か

【今後】

- 現在の目標を堅持する。
そのために、就職スケジュールの変更を含め、採用環境を含め各種状況の変化を捉え、適切なプログラムを行う。

【伸長策】

- 各種プログラムを検証し、適切なプログラムを提供する。

【改善策】

- 各種プログラムを検証し、適切なプログラムを提供する。
- 複数キャンパスにおけるサービスレベルの均質化(組織体制の整備)、については、目標4を参照。

その他

- 学生の就職支援はキャリアセンターのみが行うものではなく、学部との連携が不可欠である。学部とキャリアセンターで進路情報意見交換会を開催しているが、就職に関する情報を共有するという意味のみからだけでなく、双方のコミュニケーションを密にし、施策を行う上での基礎となるものと言える。各学部では学生の社会的・職業的自立を図ることが求められており、今後学部とキャリアセンターの連携は一層重要性をますますであろう。その結果として卒業後スムーズに社会で自立できる学生を養成することにつながり、また就職状況に良い影響を与えると考える。
- 最終的な進路については、学生の自己責任で決定すべきであるが、自分の進路を自分の力で開拓できる自主性・主体性を備えた学生が減少傾向にあり、この対策無くして目標の実現はあり得ない。このため、時期を睨みながら多様な進路があることを多くのロールモデルを提示しながら指導していくことが効果的である。
- 「ゆとり教育」を受けて育った者が、いわゆる「大学全入時代」に学生となり、卒業時には世界的な景気の低迷期と重なり、各大学とも学生の進路支援に苦慮していたが、本学でも同様であり、そのような学生に各人ごとに自分らしい生き方があることを理解させ、自分に向いていると思われる進路を自らの力で見出せるよう支援してきた。
- 就職活動の拠点となる大阪梅田キャンパスには年間を通じてキャリアセンターのスタッフが常駐し、あらゆる相談に対応すると共に、学内企業説明会ははじめとする多様なセミナーを開催している。さらに首都圏での就職活動の一助として、東京駅隣接の東京丸の内キャンパス内に就職活動中の学生が利用可能なスペースを設けるなど、きめ細かな就職サポート体制を整えている。

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか</p> <p>【どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか】 <input type="checkbox"/> 下表「評価指標データ 2」のようなプログラムを実施してきた。</p> <p>【誰が(実施主体)】 <input type="checkbox"/> 備考、参照。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か</p> <p>【結果】 <input type="checkbox"/> 目標である1、2年生向けプログラム参加者数は、下表「評価指標データ 2」のとおりとなった。目標の最終年度の2013年度は73人となり目標を達成することが出来なかった。これは、キャリアセンター全体業務の見直しの中でプログラムを統合したものや協力先大学の事情で廃止となったものがあったためであるが、この代わりにキャリアゼミを増強した。業務量の許容範囲の中で適切に実行していたことから評価はBとした。</p> <p>【良かった点・効果が上がった点】 <input type="checkbox"/> 大学生生活の総括として就職があり、大学生生活を充実させることが結果として就職に良い影響を及ぼすが、充実した大学生生活を送るよう、低年時から学生に問いかける意味で有効であった。</p> <p>【課題・改善点】 <input type="checkbox"/> プログラムの見直しもあり、参加者総数は減っている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か</p> <p>【今後】 <input type="checkbox"/> 今後もプログラムを継続していく。</p> <p>【伸長策】 <input type="checkbox"/> 適切なプログラムを提供する。また、キャリアゼミ等ライフデザインプログラム全体の中で提供していく。</p> <p>【改善策】 <input type="checkbox"/> プログラム数を増やすことは、スタッフの人数などを考えると簡単にはできないが、インターンシップ等含め低学年次のプログラムを検討する。</p> <p>その他 なし</p>	☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか</p> <p>【どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか】 <input type="checkbox"/> 例年7～8月と10月に集中的に全課員が分担して、首都圏と東海地区、関西地区の企業を訪問してきた。 <input type="checkbox"/> 地方の教育懇談会に合わせて前日に企業を訪問した。 <input type="checkbox"/> インターンシップ受入企業の開拓やお礼訪問などに合わせて訪問した。</p> <p>【誰が(実施主体)】 <input type="checkbox"/> 備考、参照。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か</p> <p>【結果】 <input type="checkbox"/> 目標である年間の企業訪問数の結果は下表「評価指標データ 2」のとおりである。目標最終年度の2013年度は513社となり、目標の500社をクリアした。評価はAである。</p> <p>【良かった点・効果が上がった点】 <input type="checkbox"/> 企業との関係強化に努めることが出来た。 <input type="checkbox"/> 採用情報など、情報収集が出来た。</p> <p>【課題・改善点】 <input type="checkbox"/> 訪問数は、キャリアセンターの人数や他のプログラムに左右されることから、現状では500社程度が限界である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か</p> <p>【今後】 <input type="checkbox"/> 訪問数は今後も継続する。実施スケジュールは就職スケジュールが変更になるので再検討する。</p> <p>【伸長策】 <input type="checkbox"/> なし</p> <p>【改善策】 <input type="checkbox"/> 企業選定を工夫する。</p> <p>その他 なし</p>	☆

<p>目標3-2</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか</p> <p>【どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか】 <input type="checkbox"/> KG枠インターンシップ、公募制インターンシップ、成長企業インターンシップ、インターンシップ実習において学生を派遣した。 <input type="checkbox"/> 公募制インターンシップの受入れ要件を緩和する等学生への提供件数を増やした。</p> <p>【誰が(実施主体)】 <input type="checkbox"/> 備考、参照。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か</p> <p>【結果】 <input type="checkbox"/> 目標である把握可能な年間インターンシップ派遣学生数の結果は、下表<<評価指標データ 2>>のとおりである。 目標最終年度の2013年度は166人となり、目標の300人には届かなかった。しかしながら、公募型インターンシップは積極的に受け入れており、成長企業インターンシップも野村證券を通じて協力企業に勧奨する等行った。また、2009年度当時とは状況が変わり、企業に直接申し込むものが多く、実質的には多くの学生が参加していると推測できる。従って評価はBとした。</p> <p>【良かった点・効果が上がった点】 <input type="checkbox"/> 就業体験をすることにより「働くこと」の意味を考える貴重な機会となっている。</p> <p>【課題・改善点】 <input type="checkbox"/> インターンシップの認知度が低い。 <input type="checkbox"/> 受け入れ企業・団体が少ない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か</p> <p>【今後】 <input type="checkbox"/> 引き続きインターンシップに学生を派遣する。</p> <p>【伸長策】 <input type="checkbox"/> 企業訪問等を通じて次年度へ向けてインターンシップの実施情報を入手しながら受け入れを行っていく。また、就職時期変更に伴い、根本的に見直す可能性があることから状況を踏まえて適切に対応する。</p> <p>【改善策】 <input type="checkbox"/> ガイダンスなど、インターンシップについての説明回数を増やす。 <input type="checkbox"/> 受入企業・団体の開拓を行う。</p> <p>その他 <input type="checkbox"/> 上記Ⅱに評価指標を示していないが、本目標の評価指標は、KG枠インターンシップ、公募制インターンシップ、成長企業インターンシップ、インターン実習の派遣者数である。</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標4</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか</p> <p>【どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか】 (課長または主任(現在は課長補佐)の配置) <input type="checkbox"/> 人事部長宛てにセンター長名で要望を出すと共に、各方面で必要性を訴えてきた。</p> <p>(指示命令系統の一本化) <input type="checkbox"/> 各キャンパスの運用や指示命令が均一に徹底されるよう、週1回の全体ミーティングの開催や勤務シフトによってローテーション勤務を行っている。 <input type="checkbox"/> 加えて各キャンパス固有の問題に対応するためにキャンパス毎のミーティングに管理職者が参加している。 <input type="checkbox"/> 学生数が5,000名を超えた神戸三田キャンパスには常駐の監督職以上の専任スタッフの必要性があり、総務部(当時)へ要望を行った。</p> <p>【誰が(実施主体)】 <input type="checkbox"/> 備考、参照。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か</p> <p>【結果】 (課長または主任(現在は課長補佐)の配置) <input type="checkbox"/> 課長は上ヶ原キャンパスのみ1人。主任(現在は課長補佐)は上ヶ原キャンパス1人、神戸三田キャンパス1人である。 <input type="checkbox"/> キャリア支援サービスの体制強化(人員増)については、2011年度から課長1名が配置され、専任職員数でみると西宮上ヶ原キャンパスは11名の体制になった。また2013年度からKSCに課長補佐1名が配置された。しかしながら、4キャンパスで同質のサポートを行うには、新設学部・学科の設置に伴う学生数の増加があり、まだまだ人員不足と言わざるを得ない。</p> <p>(指示命令系統の一本化) <input type="checkbox"/> 一本化できている 以上目標達成に向けて体制については徐々に整備されてきつつあり、ソフト面でも改善努力を継続していることから評価Bとする。</p> <p>【良かった点・効果が上がった点】 (課長または主任の配置) <input type="checkbox"/> KSCについては課長補佐が配置されたことにより、意志決定が即時なされるようになりスピーディな対応が可能となった。</p> <p>(指示命令系統の一本化) <input type="checkbox"/> 統一された指示になり、業務遂行に混乱がなくなり、効率的になった。</p> <p>【課題・改善点】 (課長または主任の配置) <input type="checkbox"/> 引き続きの要望。</p> <p>(指示命令系統の一本化) <input type="checkbox"/> キャンパスが複数に跨っている中で、タイムリーな学生対応や企業対応をする必要があり、個々のキャンパスの状況を踏まえた上でメール等で指示命令する必要があるが、細部にまでわたり十分詳細が伝わらないことが多々ある。構成員全員が「チーム化」の意識をもち全体感を共有する必要がある。</p>	<p>☆</p> <p>☆</p>

	<p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か</p> <p>【今後】 <input type="checkbox"/> 課長補佐の配置については、引き続き要望する。</p> <p>【改善策】 <input type="checkbox"/> 課長補佐の配置については、引き続き関係部署に要望を続ける。</p> <p>その他</p> <p><input type="checkbox"/> 聖和キャンパスの増加もあり、西宮上ヶ原、大阪梅田、神戸三田の4キャンパスで平準化された均質のサービスを提供すべく各キャンパスに主任以上の役職者の配置を要請しているところである。</p>	☆
備考	<p>【誰が】について キャリアセンターの意思決定は「キャリアセンター委員会」および「キャリア教育プログラム室運営委員会」で行っている。主なメンバーは各学部教務副主任で構成される。前者は「就職支援およびキャリア支援」、後者は「キャリア教育」について協議される。「就職率等の報告」や「キャリア教育常勤教員採用」等の人事関係については上位機関である学部長会或いは大学評議会へ上程され報告あるいは協議がなされる。また、正課科目の実施や履修者については、上位機関である教務委員会や大学院教務学生委員会で報告される。これによって全学的なキャリア支援が構築されている。</p>	☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

	単位	2009	2010	2011	2012	2013	備考
指標1 第一回キャリアガイダンスの有効性について	%	95.9	97.0	95.1	95.3	98.6	文系学生対象・第一回キャリアガイダンスのアンケートで「とても役立った」「役立った」「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」の4段階評価のうち「役立った」以上。
指標2 就職率	%	96.5	96.2	96.0	97.0	97.8	就職決定者÷就職希望者
指標3 就職・進路決定率(※)	%	82.8	83.0	82.8	86.0	87.6	(就職決定者+自営+就労継続)÷(卒業生-進学学生) ※卒業生に占める就職者の割合、ただし分母から進学決定者を除く。
指標4 就職先への満足度調査	%	89.2	94.3	94.3	94.8	95.5	内定企業への満足度(就職決定時のアンケートより) 「非常に満足」「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」「おおいに不満」の7段階評価のうち「やや満足」以上
指標5 人気上位100社への就職者の比率	%	16.6	14.3	-	-	-	人気企業100社はリクルートワークス発表による人気企業100社への就職者数÷就職決定者
指標6 大企業へ就職する率	%	57.6	54.0	49.8	51.8	53.1	民間企業への就職者のうち大企業(従業員数1,000人以上)へ就職する率

注) 指標1は、2006年度から調査開始。2008年度までは「役立った」「どちらかという役立った」「どちらともいえない」「どちらかという役立たなかった」「役立たなかった」の5段階評価のうち「どちらかという役立った」以上。2009年度は「とても参考になった」「参考になった」「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」の4段階評価のうち「参考になった」以上。2010年度以降は「よく理解できた」「理解できた」「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の4段階評価のうち「理解できた」以上。2012年度以降は「とても役立った」「役立った」「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」の4段階評価のうち「役立った」以上。

注) 指標4の2005年度は、「満足」「まあまあ満足」「やや不満」「不満」の4段階評価のうち「まあまあ満足」以上。

注) 指標5の「リクルート人気上位100社ランキング」は2011年度生以降は調査が実施されていないため回答できない。

注) 指標2は、文部科学省が大学等卒業生の「就職率」の取扱いについて統一したことに伴い、2013年度まで「就職決定率」と表記していたが、2014年度より「就職率」に表記を変更する。

注) 指標3も指標2と同様に、2013年度までは「就職率」と表記していたが、2014年度より「就職・進路決定率」に表記を変更する。

注) 指標6も指標2と同様に、2013年度までは「大企業就職率」と表記していたが、2014年度より「大企業へ就職する率」に表記を変更する。

《評価指標データ 2》

設定している目標2, 3における指標の経年数値を次に示す。

		単位	2009	2010	2011	2012	2013	備考	
(目標2)	1~2年生向け体験型実習プログラムの参加者数	KGワークラボ	人	25	130	25	23	20	1,2年生対象
		一日企業体験(ワンデイ・インターンシップ)	人	98	25	37	48	43	1,2年生対象
		成長企業インターンシップ	人	22	21	15	15	10	1,2年生対象
		市長インターンシップ	人		1				1,2年生対象
		マスメディアで働く	人	45	32	40	33		1,2年生対象
		ネクスト・リーダーズ・プロジェクト	人	34	20	28			1,2年生対象
		ウィメンズ・エグゼクティブ・リーダー養成	人	21	26	40	24		1,2年生対象
		ベンチャー・インターンシップ	人						1,2年生対象
		グローバルリーダー・インターンシップ	人						1,2年生対象
	計	人	245	255	185	143	73		
(目標3)	企業訪問数	社	421	485	440	405	513		
(目標3-2)	インターンシップ派遣学生数	公募制インターンシップ	人	38	29	35	61	42	3年生対象
		KG枠インターンシップ(企業・団体)	人	26	1	9	6	7	3年生対象
		KG枠インターンシップ(自治体)	人	4	16	12	10	8	3年生対象
		KG枠インターンシップ(会計士)	人	4	2	1	3	1	3年生対象
		その他	人	8	10				3年生対象
		インターン実習	人	78	100	100	97	98	正課
	計	人	180	179	172	192	166		